

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

平成13年9月(2001年)No. 429

OMC映像フェスティバルは 10月21日(日曜)開催

例年、大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭が10月下旬に行われていましたので、今年もそのつもりでOMC映像フェスティバルの開催日を11月下旬か12月初めに予定していましたが、図書館側より今年は11月18日(日曜)に開催との知らせがあり、予定がすっかり狂ってしまいました。そこで、急遽OMC発表会の方を10月に前倒しできないものかと、会場を探しましたところ、阿倍野市民学習センターで丁度キャンセルになったばかりという10月21日(日曜)に講堂の予約を取ることができ、ほっとしました。さてこの前倒しスケジュールに合わせるため、まず作品の選定とプログラムの準備をしなければならず、主だった役員さんに急ぎ集まってもらって、このほど作品の選定と上映順を決めることができ、早速プログラムの印刷へと急ピッチで準備をすすめてまいります。

■第41回OMC映像フェスティバル 於：阿倍野市民学習センター

日時：平成13年10月21日(日曜日)12時30分開場、13時上映。

■上映作品(敬称略)：下記の15作品とその上映順が決まりました。

①立山黒部アルペンルート：那須、②湖国の魚を守ろう：森口、③天神祭のひとこま：増池、④クロモリット：安居良枝、⑤老街：関、⑥住吉灯籠こぼれ話：安居(利)、⑦マッターホルン・ハイキング：有村、⑧YOSAKOI：江村、(休憩)⑨ネパールの祭 ティハール：西村、⑩当尾心象：玉井、⑪残雪の穂高：今井、⑫さげもんめぐり(撮影会作品)：藤原、⑬樹氷のうた：河合、⑭ザ・ダンジリ：前田、⑮北インド紀行 聖なる河：合原。

■フェスティバル出品者の方は作品のテープを9月例会日にお持ちください。

9月例会と作品研究会のお知らせ

9月例会は22日(第4土曜日)18時より、阿倍野市民学習センターで開催します。なお、作品研究会は13時30分より行いますので、こちらもどうぞよろしく。特に映像祭出品作品で細かい点で手直ししたので助言が欲しいなどの作品を歓迎します。例会及び研究会とも、楽しくしかも稔りのある集いにしましょう。お待ちしております。

大阪アマチュア映像祭は11月1日（日曜日）

大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭は、図書館側の都合により、今年は例年より半月遅れの11月18日と決定しました。

今年は昨年同様、大阪府下8つの映像クラブ（OMC、OVC、天満ビデオクラブ、住吉ビデオクラブ、寝屋川映像、ビデオサークル堺、映像きしわだ、平野映像塾）が、それぞれの代表作品を持ち寄って発表会を行います。プログラムが出来上がり次第配布しますが、お誘い合わせの上ご来場ください。

なお、OMCからは安居氏の「住まいの今昔」、関氏の「奇松怪石」、合原氏の「追憶の故郷は今」の3本が出品されます。

8月例会のレポート

今夏は特に猛暑で撮影に出かけるのも気がすまない日々でしたが、例会場は冷房も効いていて一寸した避暑気分でした。今月もお集まりがよく、他から椅子を調達してきて室内一杯に並べるほどの盛会でした。今月の司会は関氏、書記、有村氏、デッキ係は渡辺、奥の両氏、受付兼照明係は増池氏と安居良枝さんの担当で会を進行しました。

◆出席者：森、関、安居(利)、安居(良)、江村、那須、有村、松本、森下、今井、増池、中尾、西村、金子、宮崎、河合、奥、吉岡、合原、渡辺、藤原、華岡、進藤、久一、勝、前田、片山、上総の皆さん（敬称略）28名と見学者1名、作品本数14本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村 博）

1) 淀川辺りの花火 森 保信さん 4分25秒
河川敷から見る淀川の夕景や、花火大会を待つ観客などを描きながら最後は花火を見せるという構成になっています。ソニーのVX 2000を使ったにしては花火の抜けが今一つといったご意見が出ましたが、原因は判らずでした。そつなくまとまった好作品でした。タイトルやエンドマークの黒バック、白字はパソコン、ノンリニアでなくても出来ますから実写に被せる様にそろそろ研究してください。

2) 五月の奥穂高 今井 羨美さん 8分30秒
残雪の北アルプスを訪ねて西穂高の南面にかかる新穂高ロープウェイで眺望を楽しんで作品にしておられます。山に登る人しか利用しなかったロープウェイが今では2階建て、乗るのに2時間待ち、上の展望台も鈴なりの人、人、たいへんな観光ブームのようです。お天気が良ければ残雪の穂高連峰が美しく見れるのですかな無理からぬ所でしょう。さわやかな作品でした。

3) 上海の街角で 前田 茂夫さん 7分38秒
傍題に「トロリーバスのある風景」とある様にトロバスの効用を説明しながら日本では姿を消してしまった事を残念に思う、というのが前半でした。後半は一転して中国の人々が赤信号でも平気で横断歩道を渡り、車も平気で信号無視をしているのが出てきます。テーマが二つあって何とか混ぜ合わせられないかなあーといったご意見がありました。

4) クロモリット 安居 良枝さん 5分30秒
今年の夏にほんの短い期間ですが、神戸の旧居留地にある建物4箇所がコンピュータ制御によるソフトな光でライトアップされて美しい姿に変身しました。フランス人の発明だそうで、中々ムードのある被写体をムードのある音楽で見せて頂きました。大阪からでもこれだけを見に行くのは億劫なことです。珍しい見物を有難うございました。

5) ロボちゃんは今 安居 利次さん 6分30秒
大阪の国際会議場とかで今年のロボット博覧会をやっていたそうで、これを丹念に取材されて作品にしておられます。最後に「人間がロボットの奴隷になるのでは」との事でしたが、今やってるスピルバーグの映画「AI」では感情を注入されたロボットが人類の滅亡後に1体だけ残るといってお話で私はそんな

事とダブらせて見せて頂きました。

6) 私の夏二題 宮崎 紀代子さん 2分50秒

宮崎さんのノンリニア第1作目だそうです。見事に使いこなしておられる様です。私の夏はご自宅の窓から見るPLの花火と古代蓮と言うのは判るのですが、花火の歓声と後で出てくる子供さん達からは微笑ましいホームムービーの様にもとれるのです。それにしてお寺に案内する作者と、お祖母ちゃんと一緒にやってきた二人の子供さんとの関係が判らないのが残念です。

7) 樹氷のうた 河合 源七郎さん 5分11秒

今年の2月にあの「エビのしっぽ」で有名な蔵王の樹氷を2日かけて撮影してこられました。お天気の良かったのはほんの2~3時間位だったそうで、風と強風の描写と相俟って見事な作品になっています。三脚にがっちり据えて全編パンもズームもない固定カットの連続で余程の映像美とアップ、ロングの切り替えがないと出来ないワザと思います。それだけにチョット位カメラを動かしてもといった贅沢を言ってみたくもなる位でした。

8) ひまわりの里 吉岡 貞夫さん 5分10秒

岡山に近い兵庫県南光町では村起こしで畑に30万本ものひまわりを咲かせて観光客を誘致しています。一種類の花だけで作品にするのは難しいのですが、花のアップ、ロングは勿論、色々な仕草の人間を入れて変化をつけておられ、静かな音楽と共によく出来た作品になっています。欲を言えば携帯をかざした女性が何をしているのか、くらの説明は欲しかったように思いました。

9) 天神祭 増池 茂さん 6分23秒

酷暑の真っ只中、7/25日の天神祭に境内で三脚をかまえて、獅子舞や催し太鼓などをアップで見事に捉えた作品です。今までには数ある天神祭の作品を見てきましたが、境内に限定しての迫力のある作品はこれが初めてです。それだけにタイトルが「天神祭 境内にて」ではなくて「天神祭のひとこま」とか「クローズアップ天神祭」など如何かと考えてみたりしました。

10) ほうらんや 江村 一郎さん 8分15秒

奈良県橿原市東坊城町の春日神社と八幡神社でお盆の15日に行なわれる火祭を「ほうらんや火祭」と言います。重さ300キロもある燃え盛る大松明をかっついて境内を練り廻る勇壮な行事で、雨乞いと豊作の願い、疫病除けの祈願得ともいわれ坊城六つの大字の人々によって行なわれるそうです。江村さんお得意のアップを主体にした撮影で迫力満点でしたが、上映の後の話題はこんな暑い時に何でこんな事をするのばかりだったのが残念でした。

11) ティハール ネパールの祭 西村 光雄さん 9分50秒

作者の西村さんは過去に4回もネパールに行き現地に友人も居られる屈指のネパール通です。今回は一昨年の旅行で取材された、11月の収穫の後のお祭です。ヒンドゥ教の事は中々私達には理解しがたい面が多いのですが、克明な解説があって非常に解りやすく作っておられます。素直で活発な現地の子供たちが印象的でした。

12) 金魚迷惑な大会 勝 成忠さん 7分30秒

奈良県大和郡山市で毎年行なわれている「全国金魚すくい選手権大会」を間近に陣取って撮影されました。イベントの推移を克明に描写されて良かったのですが、肝心の何人位の人々が参集したのか、とか一番多く掬った人は何匹だったか、とかの説明がなかったのが見ている人には不満だったようです。何にしても金魚が一番迷惑した行事でした。

13) 私が見たカナダの鉄道 有村 博さん 6分38秒

4年越しに2回のカナダ旅行で作者が見た鉄道を撮影して作品にしたものです。観光列車「ロッキーマウンティニア号」に運よく巡り合えたのが幸運でしたが、それよりも150~160輛もの貨車の連結には正直びっくりしました。今度また行けたら、大陸横断鉄道列車に乗って撮ってみたいなあー、なんて考えています。

14) 漁港 片山 尚子さん 6分50秒

ソニーのPC7で撮影し、Hi-8にダビング編集し、再びDVにした作品だそうです。兵庫県明石と対岸の淡路島岩屋の漁港での撮影で作品にしておられま

す。随所に水に映る美しい映像などを配して気持ちのよい作品に仕上がっていました。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会を楽しみました。

■インターネット情報

ブロードバンドの本命はやはり「光？」政府が提唱するようにインターネットの発展のために全国に高速インターネット網を張り巡らそうとする一環としてIT戦略会議が各種の施策を打ち出して半年以上経過し、大都市およびその一部近郊にはADSLが普及しつつあるのは、ご承知のとおりです。

ブロードバンド接続の手段として

① CATV-NET：数年前からケーブルテレビ利用家庭対象に供用されている。速度も局によって、早いところ、遅いところ、色々あるようである。私もCATVで、速度は最低400キロビット～最高1.1メガビットで、実効速度は400～600キロビット程度である。

② ADSL：昨年末～今年はじめにかけて供用されたが、速度は1.5～1.6メガビットで、ISDN(64キロビット)の約25倍のスピード。高速インターネットの範疇に入り、面積でCRTの4分の1の大きさの映像を送信できる。

③ 高速ADSL：Yahooが発表した8メガビットという超高速のADSLというふれこみで期待されているが、実施例を聞いていないので、評価のしようがない。私も発表と同時に申し込み済みで、現在順番待ちの状況です。

④ 無線方式：東京の一部で実施されているようだが、あまり情報がよくわからない。マンション等で、光ケーブルを引き込む工事が出来ない場合は、良いかもしれない。しかし銅線によるADSLとの競合がどのようになるだろうが、未知数と思われる。

⑤ 光ケーブル：一般家庭向けは最高速度10メガビットとされ、一番速いとされている。しかし、10メガビットが保証されているわけではないので、普及し出すと遅くなることは十分予想される。いずれの方式も公称通りの速度が期待できないので、割り引いて考えておいたほうがよさそうである。

⑥ 新顔で、関西電力が発表した電灯線ネット方式は魅力的である。電話線、光ケーブルなど一切不要、100V電源に差し込むだけで24Mbpsの速度が出せるという。来年にお目見えようである。大いに注目に値すると思う。これが事実なら光ケーブル(10Mbps)より速いとなってしまふ。俄には信じがたいような凄い技術になりそうである。もし電力線ネットが普及し出すと、NTTの光ケーブルも10Mbpsなんて、ケチなことをせずに、対抗上30Mbps以上が標準になるかも知れませんね……。現に業務用の光は100Mbpsだそうですから……。

以上のとおり、光ケーブル方式が優位であることは否めないが、全国津々浦々までというには、膨大な設備投資が要ってどこまで本気でやれるか判らない。光と電力線との一騎打ちになるかも知れませんね。私の推測ですが……。

ADSLの速度は実際どの程度などだろうと、前々から関心を持ってウオッチしていたが、この点に関して、8月16日の日経朝刊紙に非常に興味深い関連記事が載っていたので、以下に紹介すると：

(紙面の都合で以下はネット版ニュースでご覧下さい。)

VIDEO 8月のインターネット月例会作品紹介

「樹水のうた」河合源七郎作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for ISDN modem	1715KB 5分4秒
			